

熊谷

目次

特集1 著名人が語る熊谷 夢のチカラ.....2
原口元気さん / SHIORI さん / 相島一之さん / 森村誠一さん

特集2 熊谷を知るキーワード
「涼む」 暑さ対策6
「躍動」 スポーツ熱中都市8
「川を守る」 自然・環境保全10
「いきいき」 健康・憩いの場12
「にこにこ子育て」 子育て14
「熊谷名物」 熊谷の名物・産業16

特集3 熊谷再発見！
熊谷の祭り18
花のある風景20
妻沼聖天山22
偉人を訪ねる24

KUMAGAYA スタイル26
新「熊谷市」10 年を振り返って36
新「熊谷市」10 年そしてこれから38
熊谷市ガイドマップ46
熊谷市のあゆみ48

プレーが開始される時、鳴り渡るホイッスル...。

心地よい緊張と期待が高まる時。

熊谷市は新たなステージを目指して、

今、キックオフの時を迎えています。

平成17年10月1日、熊谷市・大里町・妻沼町が合併。

新生「熊谷市」が誕生しました。

その後、平成19年2月に江南町と合併し、

県北初の20万都市となりました。

そして10年...。

熊谷市は、

「川と川 環境共生都市 熊谷」を

目指すべき将来都市像としています。

そんな輝かしい未来を描き出すフィールドに立ち、

かけがえのない市民一人ひとりが

パスをつないでいく。

きつと、そこには

『魅力あふれる熊谷』の姿があるはずですよ。

発刊にあたって

平成17（2005）年10月1日、熊谷市・大里町・妻沼町が合併して新生「熊谷市」が誕生し、この度、10周年を迎えることとなりました。この間、江南町との合併により県北初の20万都市となり、特例市へ移行するなど順調に歩みを進めております。

わたしたちのまち熊谷は、荒川と利根川の2大河川が市内を流れ、肥沃な大地、豊富な水と緑に恵まれ、古くから交通の要衝として栄え、農業・商業・工業がバランス良く発展してきております。さらに国宝に指定されている歓喜院聖天堂や関東一の祇園と称される熊谷うちわ祭、県内屈指の歴史がある熊谷花火大会など、たくさんの誇れるものがあります。

また、平成31（2019）年に日本で開催されるラグビーワールドカップの試合会場に決定していることから、この大会を世界に羽ばたくチャンスととらえ、市民の皆さまとスクラムを組み、一丸となつて準備してまいりたいと考えております。

この熊谷市誕生10周年記念市勢要覧2015「キックオフ熊谷」は、これまでの10年の歩みを振り返るとともに、更なる飛躍を目指し、市民の皆さまと力を合わせ「新たなステージ」へ踏み出すべく、熊谷市の魅力を広く紹介しております。

本誌を通して、わたしたちのまち熊谷の魅力を感じていただき、市民の皆さま一人ひとりがパスをつないで、「人が集い 未来を語るまち 熊谷」の実現に向け、輝かしい将来像を想い描いていただければ幸いです。

平成27年10月

熊谷市長

富田清

熊谷市市長 富田清

Acknowledgement

"Kick Off Kumagaya", the 2015 City Profile Handbook, celebrates the 10 year anniversary of the founding of "new" Kumagaya city. It reviews the 10 years history of the city and, with an aim to advance into a "new stage" in cooperation with citizens, it introduces the charm of Kumagaya city. We are very happy if you realize the allure of Kumagaya through this brochure, and we are very happy if you would imagine a bright future for us so as to achieve a "Kumagaya where people gather and are able to talk of the future" with close cooperation of each individual citizen.

Kiyoshi Tomioka Mayor of Kumagaya City

于发刊之际

这本纪念熊谷市诞生十周年的城市概要2015《Kick-off熊谷》，不仅回顾了以往的十年之路，还要展高望远，与每一位市民同心协力向新目标迈步行进。在此从各个角度广泛介绍熊谷市的魅力。希望您能通过本刊感受熊谷的魅力，也希望每一位市民为实现“人人聚集 能畅谈未来的城市熊谷”而携手共进，描绘出辉煌的将来宏图。

KICK OFF KUMAGAYA



夢のチカラ

プロサッカー選手 原口元気さん

Professional soccer player Genki Haraguchi
原口元気所属チーム 原口元気

たくさんの人の
「夢のチカラ」をもらって、
出せる力もある

1991年、熊谷市生まれ。浦和レッズにおいて、クラブ史上最年少でJ1リーグに出場。2014年5月、ドイツブンデスリーガのヘルタ・ベルリンに移籍。2015年6月には日本代表に招集され、同月に行われたキリンチャレンジカップ2015、インラク戦で日本代表初ゴールをマーク。



2015年6月、サッカー日本代表選手としてサムライ・ブルーのユニフォームを身にまとい、ピッチに立った原口選手。開始から84分、約2年ぶりの代表復帰試合で、代表初ゴールを決めました。そんな原口選手がサッカーと出会い、サッカー少年団で日々練習に励んでいたのが熊谷。「地元の方からの応援はとて心強い。Jリーグ時代からもそうでしたが、海外にいる今は一層それを感じる。」と語ります。

ドイツ・ブンデスリーガで活躍する原口選手ですが、海外での生活について聞く「生活にはすっかり慣れ言葉も上達しつつあります。欧州の選手はオン・オフの切り替えがうまく、試合での集中力もある。自分は試合での失敗を引きずってしまうところがあったのですが、そういったメンタル面でも学ぶべきところが多いですね。」との答えが、熊谷の暑さで鍛えられたので、ドイツに居る今はバテることもありません。」といった子供のような表情もチラリ。

「夢のチカラ」という言葉は、まさに自分にぴったり。目標や夢に向かう力があつたから、ここまで来れたんだと思います。ただ「自分ひとりだけの夢」では限界がある。たくさんの人の「夢」のパワーをもらって、出せる力もあると思っています。熊谷の子どものための目標になれるよう、これからも頑張ります。」と暑く、いえ「熱く」語ってくれました。

"The phrase "Power of dreams" is well suited for me. I believe that I was able to achieve my present status with the power of dreams and targets which I pursue. However, "a dream for only myself" has limitations. I believe in the powers which are created by receiving many people's power of "dreams".

“梦想的力量”这句话对自己来说可謂量体裁衣、完全吻合。正因为拥有向目标向梦想前进的力量，才能成长为现在的自己。但是“自己一个人的梦想”也是有限的。人会因为肩负大家的“梦想”而获取更多的能量，可以发挥出比自己一个人更大的力量。



出る杭は打たれない。
熊谷スピリッツがあるから、
頑張れる

料理家・フードコーディネーター

SHIORIさん

original homemade food cook, food coordinator SHIORI

原住家・熊谷市産物部 SHIORI



若い女性に向けた料理本で、若くして夢をかなえたSHIORIさん。おいしいごはんを通じて、みんなをHAPPYに!!と、料理家として忙しい日々をおくっています。

「実家では、さまざまな野菜を作っており、目の前の畑から採れたものを食べるのが当たり前でした。熊谷を離れて東京で暮らす中、そんな生活が『いかにぜいたくだったか』を痛感します。熊谷で生まれ育ったことは、『食』に携わる今の仕事に生かされています。」と、こやかに語ります。

さまざまな故郷の思い出がある中でも熊谷で過ごした高校時代が「強烈に楽しかった」。女子校ながらも文武両道を重んじる校風。『出る杭は打たれない』という言葉が語り継がれ、出る杭をもつと伸ばしていいという雰囲気校内にあふれていました。しかも、それぞれが個々に頑張りながら時には団結力もある。本当に楽しかった熊谷での学生時代。今、頑張っているのも『出る杭』スピリッツのおかげかな?!と語るSHIORIさんは、2014年、さいたま輝き荻野吟子賞を受賞しています。熊谷市出身の荻野吟子さんは、日本初の公認女性医師となった偉人。彼女の不屈の精神を受け継ぎ、先駆的な活動を行った女性に贈られる賞に輝いたSHIORIさんもまた、夢のチカラで自分の未来を切り開いていく女性です。

パスをつなぐ



夢のチカラ

1994年、熊谷市生まれ。2007年、ドイツブンデスリーガのヘルタ・ベルリンに移籍。2015年6月には日本代表に招集され、同月に行われたキリンチャレンジカップ2015、インラク戦で日本代表初ゴールをマーク。

She said that out of all the various memories of her home town, she had the most fun memories when she was in high school. "Though my high school is a girls high school, both learning and physical exercise are encouraged, which is one of the school characteristics. Surprisingly, the opposite meaning of the proverb which is "The nail that sticks out doesn't get hammered down," was traditionally respected and passed down to the next generation. There was an atmosphere full of feeling in school saying let's help someone who challenges to achieve their goal. I suppose that why I am in my present position now is because of this spirit "Nails which stick out".

在各种各样有关家乡的回忆当中，留给我极为快乐的是在熊谷度过的高中时代。虽然是女校却同样重视文武双全的校风。“绝不枪打出头鸟”的话在学校里从古到今一直流传，校园内充满了让“出头鸟”们发挥个人特长的氛围。现在仍然能坚持不懈也许正是因为延续着“出头鸟”的精神吧。”

夢のチカラ

俳優 相島 一之さん

Actor: Kazuyuki Aijima

【俳優相島一之】



荒川の美しい景色。
…大好きです！

1961年、熊谷市生まれ。立教大学在学中に三谷幸喜氏と出会い、劇団「東京サンシャインボーイズ」に参加。三谷作品にも多数出演するほか、テレビ、映画、舞台で活躍中。

「熊谷を離れてからの方が長くなってしまいました。地元の方や友人と会って話すと、つい熊谷弁が出ますね。」と笑う相島さん。熊谷で生まれ育ち、暮らしていた10代後半の多感な時期、相島さんは「物書きになりたい」という夢を持っていたといいます。「コレが書きたい」というものはなかったのですが、とにかく、思い込みだけは強かった。大学でいろいろなことを勉強したり、社会に出て経験を積む中で「物書き」になり、生きていくという大きな夢を持っていました。

大学時代に演劇に出会い、その魅力に取りつかれた相島さんは、三谷幸喜氏に出会います。三谷の書いたものを見た時「こんなに面白いものを書く人間がいるなら俺は書かなくてもいいかな」と思えたんです。じゃあ、どうやって生きて行こう…という時、私の芝居を『良い』と言ってくれた人が3人いました。たつた3人でもそう言うってくれるなら、俳優として頑張っていけると思ったんです。」と語る相島さん。

相島さんは、子育てにも積極的に関わる「イクメン」。自分が親になつたせいもあり、熊谷で過ごした子どもたちのころのこと、特に、父とのことをよく思い出します。荒川公園で、よく父に遊んでもらったな。美しい荒川の風景が「大好き！」という相島さんにとって、熊谷は家族や友人とのつながりを育んだ大切なふるさとです。

Mr. Aijima is an actor, who is also known as an 'Ikumen'; a handsome daddy who positively takes care of his children. "Since I became a parent, I often remembered my childhood spent in Kumagaya, especially memories of my father. My father and I would often play at Arakawa Park." For Mr. Aijima who greatly loves the Arakawa scenery, Kumagaya is an important hometown where he built up emotional ties with his family and friends.

相島先生是一位积极参与养育子女的“奶爸”。“或许是因为自己也当上了父亲，常常想起在熊谷度过的童年时光，特别是和父亲在一起的时候。父亲经常带我在荒川公园玩耍。”对于热爱荒川美景的相岛先生来说，熊谷是培养了亲情和友情的可爱的故乡。



鮮烈で圧倒的な戦火の記憶。
そして、豊かな少年時代も

作家 森村 誠二さん

Novelist: Seichi Morimura

【作家森村誠二】



「熊谷というふるさとがなかったら、違った作家になっていたと思います。」森村氏の言葉の背景にあるのは、12歳の時に遭遇した戦火の記憶。昭和20年8月14日夜の空襲の体験は、鮮烈で圧倒的なものだったといいます。「昨日まで遊び、慣れ親しんでいた街が、一夜で『のっぺらぼうの焦土』になりました。炎の壁の間を、死にもぐるいで逃げた…。家族を守るために、声を荒らげて逃げるよう促した父の顔は、今でも忘れられない。戦争の体験は何度も作品に描いていますが、書くたびに、新たに思い出すことがありますね。」と感慨深げに語ります。

一方で、少年期の楽しく、豊かな思い出を与えてくれたのもふるさと。荒川や星川、熊谷の街角で、今では考えられないようなパワフルな遊び方をしていたそうです。

「夢」という言葉には『ドリーム』と『ビジョン』の意味があります。川で遊んでいた子どもころ、遥かに見える日光や上州、秩父の山々を仰ぎ見て、『山の向こうには、川の向こうにはどんな世界があるのだろう』と思いを巡らせ、『いつかあの向こうに行ってみよう』と思っていました。『ドリーム』にも『ビジョン』にも影響を与えた熊谷を、森村氏は「誇るべき街、我がふるさと」と呼んでいます。

夢のチカラ

1933年、熊谷市生まれ。ホテルマンとして9年間働いた後、作家に。小説のほか、ノンフィクションなども手がけ、多数の作品を発表。主な受賞は江戸川乱歩賞、日本推理作家協会賞、角川小説賞、吉川英治文学賞など。

"The word "dream" to me has two meanings: "dream" and "vision". In my childhood, while playing in the river and viewing the mountains of Chichibu, Nikko and Joshu far away, I wondered what the world beyond the mountains and over the river was like and I kept hoping that I would like to visit out there someday. Mr. Morimura calls Kumagaya, which had an influence on his dreams and vision, "my proud town and my hometown".

“梦想这个词中既有‘美梦’，也有‘理想’的意思。当我还是个在河边玩耍的孩子时，仰望遥远之处可见的日光、上州、秩父的群山，总是想着山的那边、河的那边究竟有什么样的世界呢。梦想着有一天可以到对面那边去看一看。”森村先生将给予他美梦和理想的熊谷，称为“引自豪的城市，我的故乡”。